

科目名 クラス 講義区分

コミュニケーション論 <春集>

【教員氏名】

長崎 励朗
研究室:聖アンデレ館 7 階 715 号室
メールアドレス:nagasaki@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義 アクティブラーニング

【講義・演習概要】

一般に「コミュニケーション」と言えば、人間同士のパーソナルな会話が想起される。そのため、メディアを介した「マス・コミュニケーション」とは別に語られがちである。しかし、本来これらは別個のものではない。コミュニケーションとは、ある主体が別の主体に情報を伝達する行為の全てを含むものだ。そのため、コミュニケーション研究はメディア論のみならず、社会心理学や文化人類学など複数の分野にまたがって展開されている。本講義ではこれらの知見を分野横断的に論じることで、「コミュニケーション」を捉える多角的な視点を提供する。

【学習目標】

コミュニケーションに関する幅広い知識を身につけることを通じて、一般に言われる「コミュニケーション能力」などの言葉に流されない自分なりのコミュニケーション観を構築してほしい。

【講義計画】

- 第 1 回:ガイダンス
- 第 2 回:コミュニケーションとマス・コミュニケーション
- 第 3 回:コミュニケーション研究の系譜
- 第 4 回:コミュニケーションのメディア史(1)―焚書が持つ意味
- 第 5 回:コミュニケーションのメディア史(2)―新聞は「権力の番犬」か?
- 第 6 回:コミュニケーションのメディア史(3)―写真と観光
- 第 7 回:コミュニケーションのメディア史(4)―無声映画のシンボル利用
- 第 8 回:コミュニケーションのメディア史(5)―トーキーと総力戦
- 第 9 回:コミュニケーションのメディア史(6)―「National」のラジオが誕生するとき
- 第 10 回:コミュニケーションのメディア史(7)―テレビは教育的か?
- 第 11 回:コミュニケーションのメディア史(8)―インターネットは社会を変えるか?
- 第 12 回:市民的公共圏は存立可能か?
- 第 13 回:市民的公共圏の是非
- 第 14 回:民主主義とコミュニケーション(1)右翼と左翼
- 第 15 回:民主主義とコミュニケーション(2)ヨロンとセロン
- 第 16 回:民主主義とコミュニケーション(3)デモのある社会は健全か?
- 第 17 回:文化がつなぐコミュニケーション(1)
- 第 18 回:文化がつなぐコミュニケーション(2)
- 第 19 回:文化が分断するコミュニケーション
- 第 20 回:機械とのコミュニケーション
- 第 21 回:機械に心はあるか?
- 第 22 回:信頼とコミュニケーション
- 第 23 回:イレギュラーな情報伝達―噂研究の系譜
- 第 24 回:ポスト・トゥルースの時代
- 第 25 回:パーソナル・スペースとコミュニケーション
- 第 26 回:コミュニケーションから見た若者論(1)―「族」から「系」へ
- 第 27 回:コミュニケーションから見た若者論(2)―「コミュ障」と「オタク」
- 第 28 回:国際関係とコミュニケーション
- 第 29 回:授業総括(1)
- 第 30 回:授業総括(2)

【成績評価の方法】

試験評価:100% レポート:0% 出席:0%

【使用テキスト】

佐藤卓己『現代メディア史』岩波書店

【参考文献】

- ・田崎 篤郎・児島 和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開』、北樹出版、2003 年
- ・浅野智彦『若者とは誰か 増補版』、河出書房新社、2015 年

【準備学習の指示(事前学習 60 時間、事後学習 60 時間)】

試験前にはノートを見直すことをおすすめします。

また、日常的には、授業の内容を踏まえて自身の周囲にあるものを観察してみることを。

【その他備考(担当教員用)】

【備考(管理者用)】